

令和2年度行政評価 施策評価シート (令和元年度実績)
 施策名 循環型社会の構築

施策コード 5050203

1. 施策の担当	
主管課	生活産業部 環境衛生課
関係課	

2. 総合計画における位置づけ			
総合計画	政策	第5章 安全でひとと環境にやさしいまちづくり (安全・防災・環境)	節 第2節 環境衛生・環境保全
	施策	循環型社会の構築	
基本方針			
・市、市民及び事業所の役割分担や連携により、循環型社会の形成を進めます。			
現況と課題			
・これまでの大量生産、大量消費、大量廃棄といった生活様式から、廃棄物の排出抑制 (Reduce:リデュース)、製品などの再利用 (Reuse:リユース)、資源としての再利用 (Recycle:リサイクル) の3Rを基本とする循環型社会の構築が進められていく中で、ごみのさらなる減量化、各種リサイクル品目の適正なりサイクルの継続及び推進が必要です。			
施策目標			
対象 (誰を、何を、どこを)			
市民及び事業者			
意図 (どのような状態にしたいのか)			
使い捨ての文化を見直し、3Rに基づいたライフスタイル・ビジネスへの転換を促進します。			

3. 市民ニーズ							
	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
満足度 (偏差値)	52.2						
重要度 (偏差値)	40.7						

4. 施策にかかるコスト								
	単位	H30決算	R元決算					
コストの内訳	人件費	千円	65,939	70,278				
	事業費		922,088	937,578				
	フルコスト		988,027	1,007,856				
財源内訳	国庫支出金	千円	0	0				
	府支出金		161	138				
	市債		0	0				
	その他		179,863	191,706				
	一般財源1 (=フルコスト-特定財源)		808,003	816,012				
	一般財源2 (=直接事業費-特定財源)		742,064	745,734				

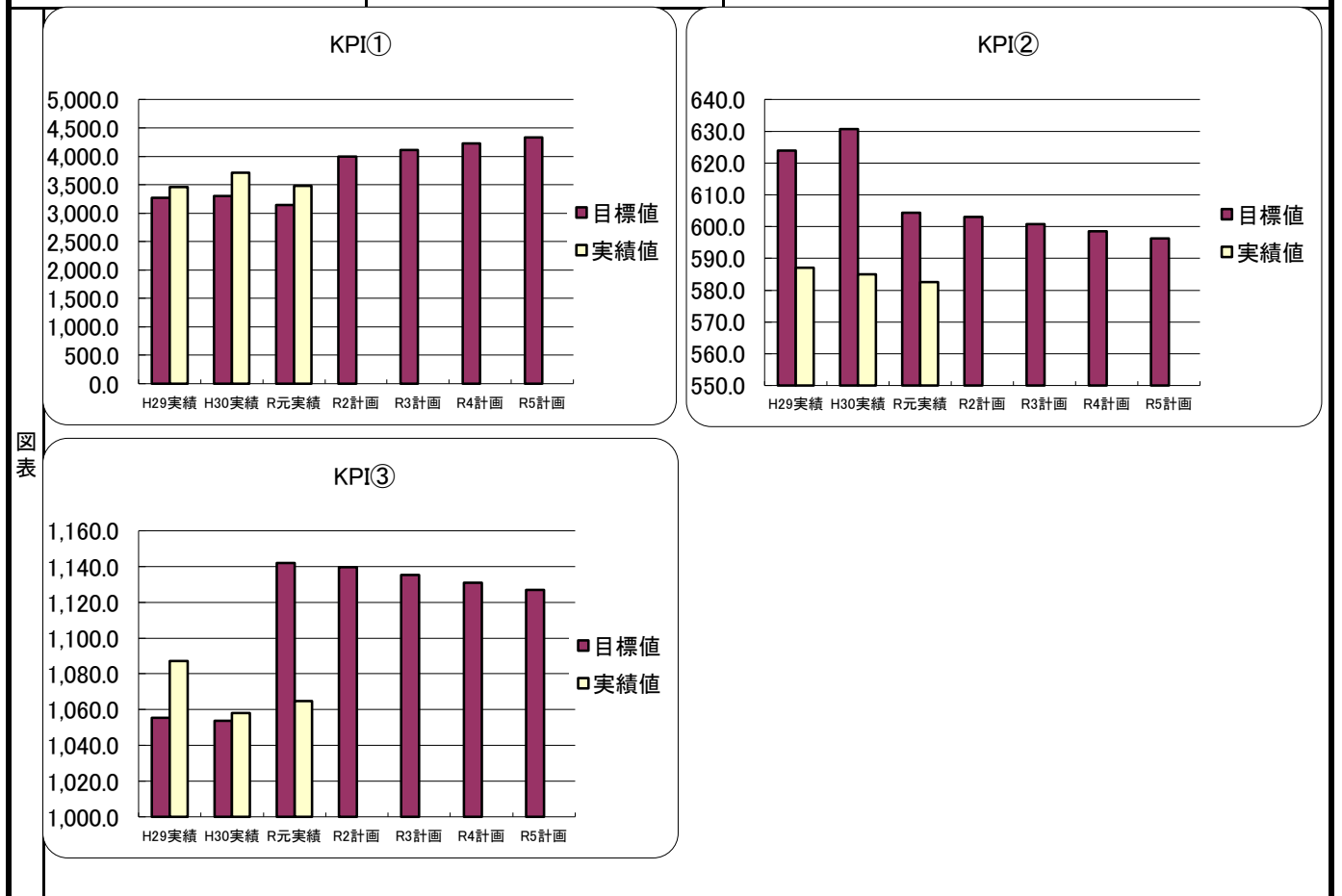
5. 施策の重要業績成果指標 (KPI)							
① KPI 1 一般廃棄物 (ごみ) の再資源化量							
項目	H29実績	H30実績	R元実績	R2計画	R3計画	R4計画	R5計画
目標値	3,271.0	3,303.0	3,146.8	3,996.5	4,112.4	4,223.6	4,332.4
実績値	3,456.0	3,716.0	3,484.0				
達成度	105.66	112.5	110.72				
KPI設定の根拠		KPI目標数値の設定根拠			目標達成・未達成の理由・背景		
循環型社会の構築を推進するため、再資源化を進めていく必要があります。一般廃棄物の再資源化量の増加により、ごみの分別・リサイクルに対する市民への啓発が進んでいるかがわかります。		平成24年度までは「第5期分別収集計画 (平成21年3月)」、平成25年度は「第6期分別収集計画 (平成22年6月)」、平成26年度から平成30年度まではごみ処理基本計画 (H26.3) より。令和元年度以降はごみ処理基本計画 (H30.3) より			市民のリサイクルに対する理解は進んでおり、目標数値は達成した者の、新型コロナウイルスの影響や、小島養殖での魚あらしサイクル量の減少により、昨年度より減少となった。		

② KPI 2		容器包装プラスチックの再資源化量					
項目	H29実績	H30実績	R元実績	R2計画	R3計画	R4計画	R5計画
目標値	624.0	630.7	604.3	603.0	600.7	598.5	596.2
実績値	587.0	585.0	582.5				
達成度	94.07	92.75	96.39				

KPI設定の根拠	KPI目標数値の設定根拠	目標達成・未達成の理由・背景
循環型社会の構築を推進するため、再資源化を進めていく必要があります。容器包装プラスチックの再資源化量の増加により、ごみの分別・リサイクルに対する市民への啓発が進んでいるかがわかります。	平成24年度までは「第5期分別収集計画（平成21年3月）」、平成25年度は「第6期分別収集計画（平成22年6月）」、「平成26年度から平成30年度まではごみ処理基本計画（平成26年3月）」、令和元年以降はごみ処理基本計画（平成30年3月）」、バックデータより。	容器包装プラスチックに対する一定の理解が進んでおり、概ね目標数値は達成できている。

③ KPI 3		カン・ビン・ペットボトル本体の再資源化量					
項目	H29実績	H30実績	R元実績	R2計画	R3計画	R4計画	R5計画
目標値	1,055.5	1,053.6	1,142.1	1,139.6	1,135.3	1,131.1	1,126.8
実績値	1,087.0	1,058.0	1,064.9				
達成度	102.98	100.42	93.24				

KPI設定の根拠	KPI目標数値の設定根拠	目標達成・未達成の理由・背景
循環型社会の構築を推進するため、再資源化を進めていく必要があります。カン・ビン・ペットボトル本体の再資源化量の増加により、ごみの分別・リサイクルに対する市民への啓発が進んでいるかがわかります。	平成24年度までは「第5期分別収集計画（平成21年3月）」、平成25年度は「第6期分別収集計画（平成22年6月）」、「平成26年度から平成30年度まではごみ処理基本計画（平成26年3月）」、令和元年以降はごみ処理基本計画（平成30年3月）」、バックデータより。	市民のリサイクルに対する理解が進んでおり、概ね目標数値は達成できている。



6. 施策の事後評価			
	判定項目	評価点	評価理由、今後の方向性等
一次評価 (担当課による評価)	施策の成果レベル (過去の推移、周辺市との比較なども含む)	(4点中) 4	平成18年度からごみ袋の有料化、平成20年度から容器包装プラスチックの再資源化を実施している。近隣の市町でも有料化等が進んでいる。
	施策に対する市民ニーズ	(3点中) 2	市民アンケートでは51.4(H24)から52.2(H30)と満足度がやや向上している。また重要度が比較的高いことからニーズが高い施策である。容器包装プラスチック類の出し方については複雑な部分もあるため、ピーク時ほどではないが依然問合せがある。
	施策を取り巻く状況 (法令等の動向、国・府の政策の動向、社会潮流など)	(3点中) 3	廃棄物処理を取り巻く状況は、減量化・リサイクルを優先するシステムへ、循環型社会への転換を求められており、「循環型社会形成推進基本法」をはじめとする各種リサイクル法の制定・整備が行われている。
	合計点	(10点中) 9点	
	総合評価	A	引き続き適正な再資源化に取り組んでいく。
二次評価 (政策推進課・行財政管理課による評価)		B	引き続き目標値の達成に努めること。
三次評価 (理事者による評価)		B	引き続き目標値の達成に努めること。 リサイクルの資源化の推進に努めること。

7. 施策を構成する事務事業							
事務事業			R元年度決算額			R2年度予算	一次評価
予算コード	事務事業名	人件費	事業費	一般財源			
1	01030700	ごみ収集事業	52,560	937,270	745,891	0	B
2	01080080	廃棄物中継施設管理事業	17,718	308	-157	0	B
合計			70,278	937,578	745,734	0	